

以森伝心

理事長 柏原康夫筆

第 6 号

2008 年 12 月



紅葉に彩られた山里（南丹市美山町）

特集：インタビュー「いけばなと森」 華道家元池坊 次期家元 池坊由紀さん

京都モデルフォレスト運動2周年記念シンポジウム

『以森伝心 ～伝えたい、森を想う人のところ～』

森と木のナルホド講座 第2回「落葉樹と紅葉」

モデルフォレスト活動報告 活動にぐぐっと接近 以森伝心リポーターニュース



京都の森を守り育てる運動に参加しませんか

自然にあるものに最小限の手を加えて 最大限の美しさを引き出す

草木や花を人間と同じ命のあるものとして見つめ、その美を表現する日本の伝統芸術・いけばな。全国に2,000以上あるといわれる流派のなかでも最大規模を誇る流派が池坊である。500年以上の歴史を持ち、室町後期に池坊専応いけのぼうせんおうが著した花伝書『池坊専応口伝』のなかで、花をいけることで悟りへ至ることができるという理念が確立された。

そして現在。歴史と伝統を守り伝えながら、「もったいないプロジェクト」や「国際活動」など、池坊は時代の要請に応えた活動を展開させている。六角堂頂法寺横にある池坊会館にて、次期家元・池坊由紀さんにお話をうかがった。

自 然のなかで美しく咲いている花を、なぜわざわざ摘みとって、いけるのか？ そうした疑問を抱いたり耳にしたりしたことがある人は多いのではないだろうか。

「花を愛する心は、世界中の人々に共通の感情だと思います。いけばなを知らなくても野に咲く花に美しさや安らぎを感じて、摘んで帰って飾るといった経験が誰にでもあると思います。花が美しいから……ということもあるでしょうけど、花が人間と同じく生命を持ち季節によって変化するので、自らの生死や感情を花に託しやすく親しみを感じるというのも、花を愛する理由だと思うのです」

京都市街が一望できる池坊会館の最上階の一室で、池坊由紀さんは紅葉間近の東山に目を向け、静かに微笑んだ。

「いけばなは仏さまに捧げるくげ供花から生まれました。人間より短いスパンで生死を繰り返す植物を人間の代わりに神仏に供えることによって、人間は神仏とのコミュニケーションを取ろうとしたといわれています。それが室町時代に入ると、床の間が作られるようになり、飾るための花をいけるようになりました。宗教的な意味合いが強かった供花から日本古来の哲学や思想を含んだいけばなへと発展したのです」

古来、森羅万象に命があり神が宿るという自然崇拝、依り代信仰は、日本人に深く根付いている。どんなものにも命が宿るからこそ、自然のなかに不要な物は何一つなく、すべてが必要なものだと考えるのである。例えば、雑草のように野にあっては害になるもの、倒木のように誰にも顧みられることなく朽ちていくものであっても、意義を見出し違う形で再利用する。いけばなにおいては、

一見すると使い道がないように思われる草木を取り除くのではなく、それぞれの個性を見出し活かすことで美を創出するのである。

そ うした理念をベースにしつつ新しい形で実践したエコ活動が、妹の池坊美佳さんが主体となって始めた“もったいないプロジェクト”だろう。使用済みの割り箸や稽古で残った小枝など普段なら捨ててしまうようなものを回収し、それらを素材に用いていけばな的大作として展示するのである。さらに素材は展示後、腐葉土堆肥としてリサイクルできるよう考案。しかし、当初は池坊内部からも反対意見が出たという。

「美を表現するいけばなの世界で、洗ったとはいえ一度使用した割り箸を使うことはどうなのか、と反論する人もあったようです。しかし実践していくなかで、外部の方からたくさん応援をいただきました。そして池坊会館で初めて作品を展示したところ、いろいろな方々から“いけばなは美しい花だけを使うものと思っていました”“いけばなでエコができるんですね”といった感想や評価をいただきました。すると、内部でも美しいもので美を追求するだけでなく、素材にとらわれず美を生み出すことの大切さに改めて気付かされたようです」



使用済みの割り箸や稽古で残った小枝をリサイクルした作品(下)と制作風景(右)





2008年11月15日、旧七夕会池坊
全国華道展京都高島屋会場へ出
展された池坊由紀さんの作品

大阪・なんばパークスや東京ミッドタウンでも同様のイベントを開催。特に東京ミッドタウンでは、事前告知を見て、子ども連れや若いカップルなど一般の人たちも加わり約1,200名で作品を仕上げたという。名古屋、仙台、福岡でも順次開催し、活動は拡大している。

「いけばなをしたことがない人たちに、いけばなを通じて“物を大切に作る心”や“自然環境への感謝の気持ち”を知ってもらえて、嬉しいかぎりです。芸術としてのいけばなだけでなく、その奥にある理念にも触れてもらえることができたのではないのでしょうか」

芸術としてのいけばなは、国際的にも認められている。しかし、池坊では伝統文化としてのいけばなを伝える活動に力を入れている。

「海外で活動する際、デモンストレーションとして舞台上でいけばなを実演します。そのときに、海外の方が雑音としか認識できないという虫の声や川のせせらぎをBGMでかけてみたり、いけばなに秘められている哲学の例として陰陽思想を解説したりしています。説明すると、海外の方々も日本の文化や伝統、美感、哲学に理解を示してくれますし、また、私自身も改めて自国の文化や美意識に自信を覚えます」

まっすぐに伸びた枝や茎よりも歪んで個性的な形をしたものに興をそそられ、風雨で倒れた木や岩を割って咲く花にも美を感じる日本人の感性。そこには自然の持つ生命力への畏敬の念を見ることができる。

「人がいくら手を加えても、自然が作り上げた造形にはかないません。では、野にあるまがが一番美しいのか？
という、一概にそうともいえません。倒木は、そのままでは美しいと思われることなく放置されて朽ちていくでしょう。農作物のために抜いた雑草は、不要なものとして捨てられてしまうでしょう。放置され、朽ちていくものに人の手を少し加えることで“美”という価値を与えることができるのです。もちろん美しく咲いている花を手折るのなら、野にある以上の美しさを引き出す責任があるでしょうけどね」

森林も同じで、人が入り手を入れ整備をすることで、山として調和がとれる。いけばなも、自然にあるものに最小限の手を加えて最大限の美しさを引き出すのだ。自然の造形は人が生み出す美よりも、完全に近い美を生み出す。そこで、さらに少しでも完全な美に近づけるために、人は自然を尊重しながら少しだけ手を加える。自然と向き合い、自然を活かすことがひいては自分が活かされることにつながるのかもしれない。



いけのぼう ゆ き
池坊由紀

華道家元池坊 次期家元

真如堂真正極楽寺貫主・清水真澄大僧正の戒師により得度（法名：専好）し、華道家元次期四十六世に指名。学校法人池坊学園・お茶の水学院長も務める。

次期家元として、全国各地の本部花展等への出瓶や講演、シンポジウムへの参加等、精力的に活動を行い、海外でのいけばな普及にも尽力している。2004年3月、京都市芸術新人賞を受賞。2007年1月、財団法人日本いけばな芸術協会・副会長に就任。

『以森伝心～伝えたい、森を想う人のこころ～』



柏原康夫理事長による開会の挨拶



シルヴァン・ラベ氏はさまざまなデータからみた森林とCO₂排出抑制の関係を講演された



養老氏は、ユーモアを交えながら、身近な例やご自身の体験を通して分かりやすく「自然と人の関わり」を解説された



プログラム

●開会の挨拶

—**柏原康夫氏**（京都モデルフォレスト協会理事長）

●「カナダからのフォレストレーター」

—**シルヴァン・ラベ氏**（QWEB 理事長）

●「自然と人間」— **養老孟司氏**（東京大学名誉教授）

●「里山と人とのかかわり」— **今森光彦氏**（写真家）

●インタビュータイム

「人は森とどう関わっていけばよいか」

— **養老孟司氏**×**今森光彦氏**

●閉会

シルヴァン・ラベ氏（Quebec Wood Export Bureau 理事長）

ラヴァル大学林学部卒業後、林産品メーカーで7年間実務経験を積み、1993年から林産業界団体での活動に軸足を移す。1996年にケベック州林産物の輸出支援団体としてケベック木材製品輸出振興会—Quebec Wood Export Bureau (QWEB) のCOEに就任、現在に至る。2003年、カナダウッドグループ初代会長に就任、2004年以降は副会長を務める。適切な森林管理と林産物活用が地球温暖化対策として有効であるという視点からの発言が活発で、日本、欧州などの木材業界団体や国連欧州経済センターなどと協力し、多くの国際会議のスピーカーとして啓蒙運動を推進している。

京都の森林を府民みんなで守り育てる「京都モデルフォレスト運動」を推進するため、社団法人京都モデルフォレスト協会が発足して2周年を迎えました。

これを記念し、平成20年11月16日（土）、アバンティホールにおいて森と人との関わりをテーマとしたシンポジウムを開催、300名あまりの方が参加しました。



自身が撮影した写真を映し出しながら、そこから見える人と自然の関わりを解説する今森光彦氏

今森氏作品より



NHK 京都放送局の楠井まどか氏による
養老氏と今森氏へのインタビュー



養老孟司氏（東京大学名誉教授）

東京大学医学部を卒業後、1年のインターンを経て解剖学教室に入る。以後解剖学を専攻。1967年に医学博士を取得。1981年に東京大学医学部教授に就任すると同時に東京大学総合資料館長、東京大学出版会理事長を兼任。1998年に東京大学名誉教授に。2006年京都国際マンガミュージアム館長就任。

1989年、『からだの見方』（筑摩書房）でサントリー学芸賞受賞、1998年『バカの壁』（新潮社）で毎日出版文化賞受賞。

主な著書：『バカの壁』『死の壁』『いちばん大事なこころ―養老教授の環境論』などがある。

今森光彦氏（写真家）

大学卒業後独学で写真技術を学び、1980年からフリーランスとなる。以後、琵琶湖を取り巻く全ての自然と人との関わりをテーマに撮影する一方、熱帯雨林から砂漠まで、広く世界の辺境地を取材。1995年、写真集『里山物語』（新潮社）を出版。第20回木村伊兵衛写真賞、第9回秀明文化賞等受賞。2000年、ハイビジョン作品（撮影と映像監督を担当）「映像詩 里山」をNHKスペシャルで放映。2005年、日本写真協会年度賞受賞。大丸ミュージアム、東京写真美術館、フィンランドのフィラデルフィアホールなどで写真展多数開催。

主な著書：『今森光彦 ネイチャーフォト・ギャラリー』『昆虫4億年の旅』『神様の森、伊勢』など。

森と木の ナルホド講座

監修：(社)京都モデルフォレスト協会

日本の陸地面積の約 67%を占める森林。

日本は世界で有数の森林国です。

データでみると身近に感じる森林ですが、
私たちは実際、どれくらい森や木のコトを
知っているでしょうか？

ここでは、知ってるつもりでもよく分かっていない
森や木に関するナルホドをご紹介します。

第2回：落葉樹と紅葉

1

落葉樹、常緑樹ってなあに？

一般的に、熱帯では乾期、温帯では冬になる前に、
葉をいっせいに落とす木のことを**落葉樹**といい、一年
中緑色の葉をつけている木のことを**常緑樹**といいます。

では、**落葉樹**はどうして秋に葉を落とすのでしょう
か？ 落葉樹の多くは、寒い地方に分布しており、冬
の寒さと乾燥に耐えるため、冷たい空気に触れる部分
をできるだけ少なくして休眠するからだといわれてい
ます。常緑樹は比較的暖かい地域に多く分布していま
すが、寒いなかでも生育しているものは、葉の中に水
分を凍りにくくする成分を作ることができるため、葉
を落とさずに越冬できるのです。

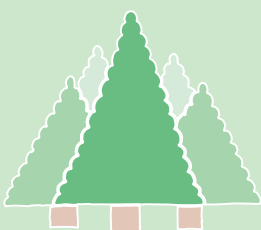
落葉樹のなかま



アカシデ／アキニレ／アズキナ
シ／イヌシデ／イロハモミジ／
ウグイスカグラ／ウメモドキ／
エゴノキ／カツラ／ガマズミ／
クヌギ／クマシデ／ケヤキ／コ
ブシ／サンザシ／シナノキ／
シラキ／シロモジ／トサミズキ
／トチノキ／ナツグミ／コナラ
／リョウブ／ネジキ など

常緑樹のなかま

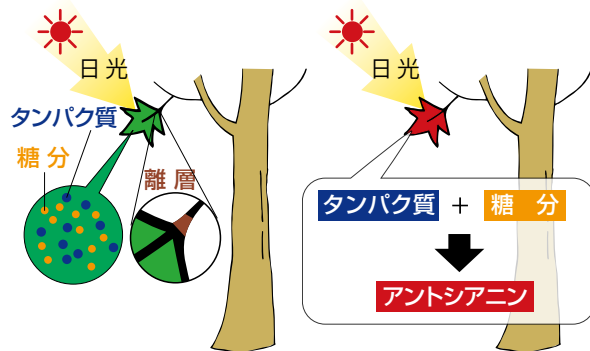
アオキ／イスノキ／カナメモチ
／オガタマノキ／カクレミノ／
キンモクセイ／クチナシ／クロ
ガネモチ／ゲッケイジュ／タブ
ノキ／タラヨウ／ツブラジイ／
トウネズミモチ／ナギ／ネズミ
モチ／ツゲ／モチノキ／アラカ
シ／シロダモ／タブ／シラカシ
／サンゴジュ など



2

どうして紅葉するの？

落葉樹のなかにはイロハモミジやナナカマドなど、
落ちる前に葉が鮮やかな赤色に色づくものがありま
す。それは、葉の中に「アントシアニン」という色素
ができるからです。これらの木は、気温が低くなると、
葉の根元に離層と呼ばれるコルク状の物質ができ、葉
で作られた糖分が枝へ運ばれなくなります。すると行
き場を失った糖分はだんだんと葉の中にたまっていき、
糖濃度が高くなっていきます。その状態で葉に日光が
当たると糖とタンパク質が化学変化を起こし、アント
シアニンができるのです。アントシアニンができるた
めには8度以下の低温と十分な日光が必要なので、空
気が澄んだ冷え込みの厳しい山間でキレイな紅葉が見
られるのです。



キレイな紅葉のための3条件

1. 日中の天気がいいこと

赤い色素となるアントシアニンは紫外線の影響で
発生します。

2. 昼と夜の寒暖の差が激しいこと

夜の気温が高いと、昼間作った糖分を葉の呼吸に
使われてしまうため、鮮やかな赤になりません。

3. 適度な雨や水分があること

乾燥しすぎると葉が紅葉する前にしおれてしま
います。

このページは、以森伝心リポーターが実際に協会の活動に参加し、レポートした内容を中心に掲載しています。

森林ボランティアリーダー養成講座 第5回 (リポーター：上野美紀子)

日時：2008年11月1日(土) 場所：府民の森ひよし

第5回目の森林ボランティアリーダー養成講座が開催され、下村泰史氏(京都造形大学准教授)による講義が行われました。参加者は18名で、ボランティア団体の方々のほか、大手企業で環境管理に携わる方々が多く参加していました。

下村氏は、野外活動の企画立案について「いつ、どこで、何を…」という5W1Hに沿って、「自然に学び、異なる立場の人と深くコミュニケーションすること」が何よりも大切だと話されました。具体的には、

- 自然のリズムや山村仕事のサイクルを知り、活動の時期を決める。俳句や歳時記から季節感を学ぶことは必須
- 地図をもとに徹底的に歩く。専門家と一緒に歩くと、知識が深まるにつれ里山の風景が奥行きを持って見えてくる

●活動のあらゆる場面で、立場や意見の異なる人との交流と相互理解が必要

といった内容が紹介されました。

印象に残った言葉は「山村での野外活動を企画する際には、地元の人の思いに応える感性が必要。地元の人が見てきたものに寄り添い、どんな活動をするか考えるべき」というものでした。環境やエコという言葉で、一時的なイベントを企画するのではなく、山村の「今まで」と「これから」を考えて、活動を計画していくことが重要だと実感しました。

講義の後は、里山林の整備実習として、山菜園の道づくりが行われ、翌日には間伐の実習も行われました。



写真などで事例を紹介する下村氏

竹の環プロジェクト「竹林間伐ボランティア」(リポーター：西本雅則)

日時：2008年10月18日(土)

場所：京都大学桂キャンパス内竹林

秋晴れの下、第3回「竹の環プロジェクト」が行われました。当日は協会会員や京都大学からの参加に加え、共催者の住友生命から91名の参加があり、総勢200名による、協会のイベントのなかでも最大規模のイベントになりました。

最初に、柴田昌三氏(京都大学教授)からレクチャーがあり、

「かつての管理された竹林ではタケノコも生えやすく、竹林が外部へ拡大することもありませんでした。しかし竹林が放置されて、タケノコも生えにくくなり竹林が周囲へ進出しています。どんどん伐って、タケノコの採

れる竹林を目指してがんばりましょう。参加者の皆さんは春にタケノコ収穫に参加する権利がありますのでお楽しみに！」と参加者の興味をひく内容でした。

竹伐り作業体験では、「住友生命大阪南支社」班に同行しました。最初に森林インストラクターの方がお手本を見せると、伐り倒される竹の音に驚きの声があがりました。参加者からは「久しぶりに自然に接して楽しかった」、「転職して森林整備がしたい」、「竹林の荒廃を知って驚いた」などの感想があり、楽しいだけではない自然環境保全に関して貴重な体験を得られたようです。

産・学・官・市民が連携するこのイベントは、大学、環境団体、そして企業が参加する地域活動の良いモデル活動になっています。森林整備の意義を参加者に周知し、地域団体と交流して進める森林整備のあり方として進んだ活動でした。



同じ職場なので、チームワークもばっちり

第2回リポーターズミーティング

11月14日に第2回リポーターズミーティングを開きました。今回はリポーターが、「ボランティア」や「企業」など森づくりを行う立場になって、様々な角度から改めて森づくりについて話し合いました。

リポーターからは、森づくりに参加する「ボランティア」にとっては、森づくりは生きがいにもなり得る一方で、「国」の立場に立つと、森は資源であるという意見が出ました。さらに「地域住民」にとっては、森は身近な生活の場であるという意見に対し、「都市住民」にとっては、森はレクリエーションの場なのではないかという意見も挙がるなど、

リポーターの間でも色々な見方があることが分かりました。

その後、各主体が互いにどのようなことを望んでいるのかを考え、よりより森づくりの方法について意見を出し合いました。森づくり活動に期待されることや、関わる人の背景は様々であり、互いの立場に立ったうえで活動をしていくことの重要性が再認識されました。



様々な立場から森づくりの意味を考えます

活動報告

びっくり!エコ100選2008に出展



8月14日から6日間、京都高島屋で開催された上記行事において、モデルフォレスト運動のパネル展示と、木の写真立て・ストラップづくりの体験コーナーを設けました。体験コーナーではすぐに30名の定員に達し盛況でした。

緑化運動・愛鳥週間ポスターの表彰・展示

8月20日、京都市のイオンモール京都ハナにおいて、今年度の上記ポスターコンクール上位入賞者の表彰と5日間の展示を行いました。府内の小・中学校及び高等学校などから3,058点と大変多くの作品を応募いただきました。



森と水土里フェスタ 2008 in 京都駅ビル



11月3日から7日まで京都駅ビルで開催された上記イベントにおいて、木に触れ森のことを考えてもらおうと、府内産材のクリスマスツリーなどを作る木工広場を開設しました。大人から子供まで大勢の人に参加いただき、会場は大盛況でした。

森を巡るツアーを開催しました

多くの方に森に親しんでもらうことを目的に、7月と11月に「森を巡るツアー」として次の行事を開催しました。

7月26日の「府民の森ひよし森の学校」には、子どもを含む42名が参加し、薪の火起こしや飯ごう体験、京都府ネイチャーゲーム協会の指導によるネイチャーゲーム、そして木工体験を行いました。



11月22日の「比叡山の紅葉と歴史に親しむツアー」では、57名の参加者が自然散策や延暦寺根本中堂の拝観、法話など、晩秋の比叡山に親しみました。



森林づくり活動にかかる協定締結

8月から10月にかけて、森林づくりを行う企業等と5件の森林の利用保全に関する協定等を締結しました。

取組企業など	森林の所在地
株式会社島津製作所	南丹市
三井物産株式会社	京都市
京都乙訓ロータリークラブ	長岡京市
KDDI株式会社関西総支社	大山崎町
京都南ライオンズクラブ	京都市

森と木のちょこっとクイズ

A、Bの□に当てはまる言葉を入れて、紅葉の仕組みを表す化学式を完成させてください。

タンパク質 + □A + □B

→アントシアニン

ヒント

葉が紅葉するには、アントシアニンという色素が必要です。詳しくは5ページを参照してください。

募集要項

正解者には、抽選で北山杉で作った木製の小物いずれか1点を、抽選で10名様にプレゼントします。

ご希望の方は、「解答」と「住所」「氏名」「どの木製小物を希望するか」を明記し、2009年1月末までにE-mailかFAX、もしくは郵送で(社)京都モデルフォレスト協会(下記宛先)までご応募ください。



北山杉のお箸



北山杉のペーパーナイフ



北山杉の一輪挿し
(花は付きません)

発行：社団法人 京都モデルフォレスト協会

入会案内資料をご希望の方は、ご連絡ください。

〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入敷ノ内町 京都府農林水産部モデルフォレスト推進課内

TEL & FAX 075-414-1270 E-mail kyomori@kyoto-modelforest.jp

URL <http://www.kyoto-modelforest.jp>

2008年12月発行

企画・編集：自然堂(じねんどう)株式会社



この印刷物は間伐材印刷用紙に大豆油インキで印刷しました。